

センター便り

江戸川区口腔保健センター

Newsletter



〒134-0013 東京都江戸川区江戸川5-14-4 Tel/03-5667-8020 Fax/03-5667-8022

日ごろ、センターの運営にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。今号は、過日開催されました関連学会の参加報告です。いずれも活気に満ち充実した学会総会であり、今後のセンター運営に活かしていきたいと考えております。

口腔保健センター運営実施委員会

関連学会参加報告

日本摂食嚥下リハビリテーション学会

平成28年9月23日(金) 24

日(土)の2日間、朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)において、第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が開催されました。例年通り江戸川区口腔保健センターより、川野副会長、今井理事、広瀬理事、清水畑副委員長、福田委員、橋本かほる協力医、古川の7名で出席して参りました。あいにくの雨模様でしたが、この会場は6年前に植田耕一郎教授が大会長をされた時に、センターから大勢で参加した事がある場所で、懐かしく感じておりました。

大会のテーマは「摂食嚥下リハビリテーションの新たな挑戦——これからの20年を考えると題して、新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野井上 誠教授が大会長として、また、実行委員長には、以前センターでも大変お世話になりました、辻村 恭憲准教授が務められました。この学術大会は、言語聴覚士をはじめ医師、歯科医師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、栄養士、ソーシャルワーカーなどの福祉職、先進的技術開発に係わる研究者、行政職などの多くの職種が集まります。現在会員数が11000名を超えており、これは、食が生活を支える事であり、口から



日本摂食嚥下リハビリテーション学会
平成28年9月24日
新潟・学会場にて

食べる喜びを守る重要性が理解されてきている結果だと思われま。

年々参加者が多くなつてきていると思われ、各講演会も会場いっぱいの中、限られた時間で、再度、口腔機能、身体機能から摂食嚥下の重要性を学ばせていただき、先端技術による舌圧検査、地域包括システムによる摂食嚥下の必要性、発達期嚥下障害、震災等勉強させていただきました。自分にとってリハビリテーションという分野は、新しく、受け入れにくい分野ですが、今後、食に対する支援は歯科医師が中心となり、進めていくことが責務と考えます。

今回は、江戸川区口腔保健センター運営実施委員会副委員長の清水畑倫子先生より「開設12年都内地域口



ポスター発表
清水畑倫子先生

腔保健センターでの摂食嚥下指導の取り組み」の演題で、ポスター発表がなされました。清水畑先生は、この学会において5回目の発表で、すばらしい発表でした。全国の多くの先生方に、センターの摂食嚥下指導において、口腔ケア研修会等多職種連携を行っている研修事業の成果が示されていると理解していただきました。また、センター運営に関しての質問があり、センタースタッフ及び協力医のモチベーションが、江戸川区との良い関係を生み、毎年補助金金額がアップしている事の説明がありました。

(古川 隆彦 記)



センタースタッフ紹介 歯科衛生士 岩崎 ゆかり



平成28年10月より歯科衛生士として、木曜日と土曜日に勤務させて頂いている岩崎ゆかりと申します。新卒時に障害者歯科診療の病院で勤務させて頂いた経験はありましたが、結婚を機に退職して子育てに専念しておりました。歯科衛生士のお仕事に復帰してから近年は、訪問歯科で居宅と施設での診療と口腔ケアを中心に携わっております。

初心に戻った思いで緊張感を持って先生方や先輩歯科衛生士の皆様のご指導の下、患者さんに安心して治療を受けて頂けるように精進して参りますので、宜しくお願いいたします。

日本障害者歯科学会

第33回日本障害者歯科学会学術大会が平成28年9月30日(金)

～10月2日(日)の3日間、埼玉

のソニックシティにて「障害者歯科

地域からのメッセージ」をメインテ

マとして開催されました。本会会員

及び口腔保健センタースタッフ合

せて総勢17名で参加致しました。

学術大会からの参加で10月1日、

2日の両日現地集合にて会場のソ

ニックシティに向かいました。花曇

りの涼しい気候の中大会は行われ、

たくさんの方の演題の中17名の参加者

が思い思いの演題に聞き入っていました。

会場を出た近隣にオクトーバー

フェストなるドイツのビールなどを

試飲できるイベントも行われていて

周辺は学会を聴きに来た人だけでなく

大勢の人々が行き来しておりました。

学会は、診療や材料などの最新情

報を知ることのできる情報交換、交

流の場である貴重な機会です。発表

は障害者歯科保健の向上と医療従事

者の研鑽のための重要な事業であり

ます。今回ポスターセッションとし

て、下記の演題での参加です。金栗

勝仁会員が代表して発表を行いました。

「知的障害者支援施設利用者に対する

当センターにおける摂食嚥下機能

検診」

○金栗勝仁、清水畑倫子、植田耕一

郎(日本大学歯学部摂食機能療法学

講座)、外園智唯(江戸川区口腔保健

センター)、加藤大樹、今井昭彦、福

田善則、田村純二、田村朗、古川隆彦、

末吉正幸、棚山泰昭、滝田和弘、川

野浩一、斎藤祐一

(概要) 当センターでは平成16年に

開設以来摂食嚥下外来を行ってきた。

同区内の知的障害者支援施設におい

て窒息により意識が回復せず植物状

態になった例や、死亡例が報告され

たことで利用者及び施設職員から摂

食嚥下機能検診をして欲しいという

要望を受けた。開始より8年が経過

した検診結果を報告した。発表には

多くの聴衆が集まり質問などを受け

た。8年の検診により施設職員の摂

食に関わる知識や意識の向上がみ

られ急変に対して適切な対応が行わ

れるようになった。ポスター詳細は会

員エドで掲載しますのでぜひ見てく

ださい。第34回大会は平成29年

10月27日～29日に「障害者の

歯科保健医療と生活支援」のテーマ

で、福岡で行われる予定である。

(棚山 泰昭 記)

日本障害者歯科学会
平成28年10月2日
埼玉・学会場にて

口腔ケアサポーター養成研修会アドバンス講演会

平成29年1月26日(木) タワー

ホール船堀小ホールにて口腔ケアサ

ポーター養成研修会アドバンス講演

会が開催されました。口腔ケア研

修会はこの数年、実習付きのアドバ

ンスコースを行っていましたが、今年

度から講演会も復活させ、ベシッ

クコース、アドバンスコース、今回

のアドバンス講演会と3本建てにな

りました。川野副会長の開会挨拶に

より始まり、齋藤会長の挨拶があり

ました。今回の講演会は、摂食嚥下

に問題のある方への食支援について

3施設の方々の講演後、植田耕一郎

教授が座長となりシンポジウム形式

で討論を行いました。以下に内容を

記します。

① 瑞江ホームの介護支援専門員の

高橋大輔様に「瑞江ホームの食事支

援」と題して講演して頂きました。

施設概要から始まり、摂食嚥下に問

題がある人が増えていること、看取

り介護が増えている現状、また、常

勤職員にアンケートをとり摂食嚥下

に問題がある人を介護する不安な気

持ちなどをお話されていました。食

事を楽しむための取り組みとして選

択外注食を行っているとのことでした。

② 暖心苑の介護支援専門員の梅沢

隆二様から「暖心苑の取り組み」と

題して講演がありました。週二回の

歯科往診で口腔ケア行っていること、

また、訪問摂食嚥下指導を10年前

より月1回(現在2か月に1回)実

施していること、センターの口腔ケ

アサポーター研修をほぼ全職員が受

講され意識が高いことをお話されて

いました。

③ 江東園のケア指導員である保田

総様に江東園の食支援について講演

して頂きました。口腔ケアに関して

は、研修を歯科往診担当の先生から

受けていて、口腔ケアを全入居者に

対して3回/日行っており、経管栄

養の利用者に対しては5回/日も

行っているとのことでした。食形態

の変更は、「本人が一番おいしく何

を食べられるか、介護担当者・家族・

管理栄養士と相談しながら行ってい

るとのお話がありました。各講演に

対し、植田教授がコメントを述べら

れていました。

植田教授が各施設担当の歯科医師

にコメントを求めシンポジウムが始

まりました。食形態変更のきっかけ

看取り介護についてなど講演者にコ

メントを求め、センターから摂食嚥

下指導に行っている佐藤先生にも会

場から説明して頂きました。植田教

授より、急性期と生活場である施設

での食形態が変わらないことが多い

のは、退院後見直ししていない現状が

あり、状態に応じて食形態を見直す

ことも大事なのではないかとのお話

がありました。また、看取り介護に

従事すると介護職員の離職者が少な

くなるのお話もあり、大変ですが

仕事にやりがいを感じると続くもの

その後、医師会の玉城会長より、「施設職員がこんな努力されている江戸川区民は幸せである」とご挨拶を頂きました。最後に、今井理事より閉会の辞がありました。

参加数は114名で歯科医師会、

区職員、医療関係、口腔ケア研修受

講者、介護施設職員など多職種の方

々に多数集まって頂きました。今回、

3施設とも食事に対して相談できる

歯科医師がおりそれが大事なことで、

さらに、研修を重ねることで職員の

意識も向上し良い方向へ向かってい

るのだと感じました。介護職員の方

々には頭が下がる思いで、私も研鑽を

積まないといけないと思いました。

このような研修会はこれからも企画

していきますので、是非ご参加くだ

されば幸いです。

(金栗 勝仁 記)

口腔ケアアドバンス講演会
平成29年1月26日
タワーホール船堀にて